

# あ

# ボ情報

あやペボランティア総合センター

〒623-0021  
綾部市本町二丁目14番地  
あやべハートセンター内  
TEL : 0773-40-1388  
FAX : 0773-40-1389  
http://www.ayabe-vc.org  
Email: info@ayabe-vc.org

## 新たな1年のスタートです。

綾部市内で活動するボランティアグループのネットワーク組織「あやペボランティア総合センター」の平成18年度定期総会が、4月26日(水)午後1時30分から綾部市役所委員会室において開催されました。

総会には登録団体の代表者など約70人が出席し、初めに、昨年11月に逝去された同センター監事の山田フミコさんのご冥福を祈り黙とうがささげられました。この後、村上運営委員長はあいさつの中で、昨年度検討されてきた同センターのNPO法人化について、当面は法人化せずに現状の体制で運営していく結論に達したことを報告されました。

来賓の四方市長、福山市社協会長の祝辞に続き、平成17年度事業報告、決算報告、平成18年度事業計画、予算について審議のあと、役員を選任が行われました。今年度は更なる活動の推進を図るため、活動分野別の「部会」を設置し、登録団体間でのネットワークづくりに取り組

んでいき、そこで独自の企画を実施できるように支援していくことが承認されました。また役員のうち、欠員になっていた監事には同センター運営副委員長だった河北誠一さんが選任されました。

総会終了後はリーダー研修として、綾部市鍛冶屋町在住で半農半X研究所代表の塩見直紀さんに、「好きなことで、ゆっくり社会を変える」と題して講演いただきました。

(講演の詳細は次ページから記載)



# あやペボランティア総合センター 定期総会開催

# 「好きなことで、ゆっくり社会を変える」

【リーダー研修】

(抜粋)

## 大変な時代だからこそ「半農半X」

1995年に起こった阪神大震災の頃から、「半農半X(エックス)」という生き方を提唱しています。当時、「半農半X」というコンセプトを瞬時に理解できる方は限られた人だけでした。この10年、さらに「大変な時代」になっているようで、新聞で紹介されたり、本の出版の要請もあり、時代の流れの変化を感じています。

私は25歳(1990年)の頃、環境問題に出会いました。食料問題や環境問題について考え、色々な本や人と会う中で「自分は何のために生まれてきたのか」ということも同時に考えるようになりました。

私は特定の宗教や政治はもっていないのですが、こうしたことを考えるのは私が10歳のときに当時42歳だった母を亡くしたことが何らかの影響を与えているかもしれません。以来私は42歳という年齢を意識して生きてきました。例えば、締切がないと原稿もなかなか書けないように、42歳を「人生の締切」と位置づけて生きてきたのです。この春、41歳となり、残り1年足らずまで近づいてきています。光陰矢のごとですね。

今は本当に「大変な時代」です。地球温暖化等の環境問題、少子高齢化問題など様々な問題が山積しています。私たち若い世代は「赤字世代」と呼ばれることもあります。それに対し、希望を失い、絶望するのではなく、若い世代は何ができるのか考えていたら、屋久島在住の作家・翻訳家

の星川淳さんの考え方「半農半著」(農のある小さな暮らしをしながら、執筆で社会にメッセージする生き方)に出会ったのです。星川さんは著述が可能だが、自分は何ができるのか考えました。ごく普通の若者であった私は、自分には何も特技も個性もないということもすぐにわかりました。95年のある日、「著」の部分にアルファベットの「X」の文字を入れたらピタっとはまりました。その日から私は自己探求を終え、こういう生き方があることを伝えるという使命を得たのです。それから10年たって社会がさらに変わり、ますます大変な時代となり、共感くださる方が急増するようになってきました。

半農半XのXとは、好きなことだと同意に考えたらよいでしょう。でも、私が、若い人に「好きなことは何ですか」と問うとわからないと答える人が多いのです。いまという時代は自分で自分の好きなことがわからない時代でもあります。

今日は講演の最後に簡単なワークをします。自分の夢は実際に紙に書かないとわかりません。長く続けてきたことはXを見つける良いヒントになります。例えばパソコンの好きな人、写真が好きなこと、またおせっかいが好きな人。このおせっかいはとても大事なキーワードです。そういう人がいないと世の中は変わりません。後で夢再確認のワークをやりたいと思います。



## 「21世紀のキーワードは「大好きなこと」

私という人間を知っていただくためにも、自分を変えることになったキーワードをいくつか紹介したいと思います。ネイティブアメリカンのイロコイ族は、「7世代後」を考えて行動するそうです。1世代を30年としてなんと210年先です。自分がもう既に生きていない遠い未来を想って、今争うべきか、山を削るべきかと、判断するそうです。この言葉との出会いが1991年頃でした。

次に在野の思想家・内村鑑三氏の「後世への最大遺物」(1894年講演録・岩波文庫)です。約110年前の講演なのですが、この中で、我々はこの世に何を遺すべきか述べられています。金か、事業か、思想か。しかしこれらは誰もが遺せるものではない。誰でも遺せるもの、それは高尚な人生だ、と述べられています。内村氏は当時33歳。私がこの本に出会ったのが28歳でした。昔の33歳なので、今の33歳とは違いますが、以来、私はこの33歳という年齢を強く意識し、10年間勤めた会社を辞め綾部に戻ってきたのが33歳のときでした。

## 「X=自分と社会の接点から生まれてくるもの」

私は「不惑」の40歳を過ぎ、今年「本厄」の41歳になりましたが、「半農半X」という言葉に出会い、それが羅針盤となっているおかげで、惑わず生きています。振り返ってみると、子どもの頃は、山の神さまを祀ったり色々な村行事がありました。また里山があり、昆虫採

私は21世紀のキーワードは「大好きなこと」だと思っています。好きなことには、寝る時間、食べる時間を惜しんで学んだり、チャレンジしたい気持ちになれます。日本の教育では、何かができる、じゃあ、今度は次の何かをやりなさいと教えます。しかし私は、例えば数学が好きなら、とことんやればいいと思っています。いまという時代は何でもできる人より、とんがった個性があるほうがおもしろい時代のような気がします。大好きなことは、恐い言葉ですが「武器」になります。その武器をもって、社会を変革していく。社会変革とは、様々な問題の解決だったり、新しい平和な文化を創造していくことです。大好きなことで社会をさらによくしていく。そういう生き方が最先端になっていくのだと思います。

私たちは小さな頃から「好きなことではご飯は食べられないぞ」と言われてきました。しかし最近、若い人の中で大好きなことを仕事にして社会を変えていくという人が増えてきています。仕事は自分で創ることもできるのです。

集が趣味で、同級生が10人と小さな学校で育ちました。それらはほんとうに幸せなこと、恵まれたことだったのです。

今という時代は、視野が狭くなり今日の自分しか考えられなくなりがちです。

私は25歳で環境問題に出会い、自分の生き方や暮らし方について考えました。



### 【塩見直紀】

1965年、京都府綾部市生まれ。カタログ通販会社「フェリシモ」を経て、2000年、「半農半X研究所」を設立。屋久島在住の作家・翻訳家・星川淳さんのライフスタイル「半農半著」にインスパイアされ、1995年から21世紀の生き方、暮らし方として、「半農半X」というコンセプトを提唱している。市町村から個人までの「エックス=天職」を応援する。「ミッションサポート」と「コンセプトメイク」がライフワーク。「使命多様性」あふれる世界をめざす。  
主な著書:「半農半Xという生き方」「半農半Xという生き方 実践編」

また、何をするために生まれてきたのか考えました。そのふたつへの回答が半農半Xです。その生き方を10年間、実践してわかったことは、この生き方でいだろうという確信です。またそれを伝えていくことがぼくの使命だということです。環境問題や教育など問題はたくさんあり、解決するため、今はやらなければならないことがいっぱいあります。重圧はありますが、チャンスもいっぱいあるチャレンジしがいのある良い時代だと思います。

余談ですが、中国には昔から「晴耕雨読」という言葉があります。KJ法の発案者である川喜田二郎さんは「読」という漢字を「創」に換え、「晴耕雨創」という言葉をつくられています。これは半農半Xの親戚みたいなものだと思います。

X(エックス)という文字は、棒が2本交わっていますが、一本を自分に例え、もう一本を社会に例えると、自分と社会がクロスする(接点)という意味があると思います。Xの反対語は何か。それは例えば線路(=)のように永遠に交わらない形です。最近では社会と交わらない人も多いですが、接点があるからこそ生まれてくるものがあるのです。出会いが何かを生むのですね。

私はこの冬(1月から3月まで)、中学校で国語を教える

機会をいただきました。先生がいないというので探されていたところ、声がかかり、初めはお断りしていたのですが、これも天命と受けとめ、最後はお役に立てたらと引き受けました。子どもたちには漢字をたくさん教えました。たとえば、日本語で一番美しい漢字は、「合(あう)」という漢字です。「助け合う」「声を掛け合う」などの「合う」です。人間は一人では生きられなく、互いに支えあっているのですね。他の生命ともそんな関係です。

また、起承転結の「起」という漢字は、「己(おのれ)が走る」と書きます。インドのマハトマ・ガンジーの言葉に「世界に変化を望むのであれば、自らがその変化になれ」というのがあります。自分が変わろうとすることで何かが起こる、始まるのではないのでしょうか。自分が変わると、自ずと世界は変わっていくのです。

この3ヶ月は、私の今後の人生を考えるうえで、大変よいきっかけになりました。半農半Xと国語は似ています。恵まれた日本の自然からメッセージを聴き、そして、表現する。これは半農半Xという生き方と同じなのです。子どもたちには雷月花のころを大事にし、表現力をつけていてもらいたいと願っています。

## 2つのことにチャレンジする理想の人生

「半農半X」について、「自分の時間の半分を農業に使うのか」という質問がよくあります。「半農」の意味するところは時間でも面積でもなく、またプランターでも市民農園でも家庭菜園でもよくて、土に触れ合うこと、別の言葉で表現すると「いのち」「感性」に触れることが大切なのだと思います。いま恐ろしい事件が多発していますが、「万物へのいのちへの感性」はとっても大事なことだと思います。それが農的なことで養えるのです。これからは2つのことにチャレンジしていく時代だと思います。一つは環境問題を解決し、持続可能な世の中をつくること(小さな農ある暮らし)。もう一つは大好きなことで社会を変革していくことです(X=天職)。

別の言い方をすると、「シンプルな暮らし=農的暮らし=根

っこ=土」を「分母」とし、「天から与えられた仕事=大好きなこと=翼(風)」を「分子」とする生き方です。「根無し草」という言葉がありますが、大事なことは「根っこ」(分母)を持つことです。しかし、根っこだけでは窮屈なので、「翼(風)」(分子)を持つ必要もあります。そして分子(風)と分母(土)を合わせると「風土」となります。こうして新しい風土が形成されるのではないか。これが私案「21世紀のしあわせの公式」です。

私たちの前にはたくさんの疑問が山積していますが、希望の未来を築いていくためには、持続可能な小さな暮らしを志すこと、そしてみんなが天与の才(志)を世に活かす(周囲とシェアする、周囲にプレゼントする)ことが大切なのではないでしょうか。

歌手歴40年という加藤登紀子さんは千葉県鴨川在住で、休みの日には農業をして暮らしておられます。加藤さんはすでに完成された歌手だと思のですが、しかし、農的な暮らしにより、さらにすてきな歌い手になられると思います。娘さんも歌手なのですが、「半農半歌手」を自称されているそうです。

## 3つの「もったいない」

21世紀の「2大問題」は、環境問題と天職問題だと思います。ともに大きな問題だと思っています。生き方を迷っている人はほんとうに多いです。好きなことを見つけて仕事にできることは幸せです。それは社会にとってもとてもよいことだと思うのです。

ノーベル平和賞を受賞されたワンガリ・マータイさんは日本語の「もったいない」を世界語にしたいと言われていますが、私はさらにあと3つの「もったいない」があると思います。①「天の才(個性、特技、好きなことなど)」の未活用、②「地域資源(自然や歴史、地域の食文化など)」の未活用、③多様な人財の「未交流」、これが私が思う「3つのもったいない」です。

昨年プロ野球ではセ・パ交流戦が始まり、新たな可能性が生まれました。私自身、綾部に帰ってきてからたくさんの方とお出会いする度に、交流によって色々なことができるのではないかと思います。可能性を感じました。人財の交流をすることによって綾部を活性化できると思います。最近、結婚式では「仲人」は少なくなりましたが、「21世紀の仲人」としてコーディネーター、ネットワーカーが何人も必要だと思っています。育成は急務です。

好きなことで変革している人の身近な事例として、お2人紹介させていただきます。農家民泊「素(そのまんま)」をされている芝原キヌ枝さん(綾部市在住)は、市外から若い人などが泊まりに来られるように

私が考える理想の生き方は、半農半ヘルパーや半農半ボランティア、半農半NPO、半農半社会起業家、半農半まちづくりプランナーです。そういう人が増えればいいと思っています。そして最期はPPK(ピンピンコロリ)。おそらくめざすべきは天職をおこない、大往生する生き方です。

なって、今年で4、5年になります。若い人が遠くから来て泊まって「綾部ファン」になって帰っていかれ、またリピーターになってくださる確率も高いです。普通は他人を自分の家に泊めれば、何か盗られるのではないかと心配しますが、こんな田舎までわざわざ泊まりに来る人に悪い人はいない、と超然としておられ、お客さんの結婚式に呼ばれたり、神戸のルミナリエを見たいというので連れて行ってもらったりなど、すてきな交流が増え、物語がたくさん生まれています。芝原さんは若い世代と話したりするのが大好きなのでしょう。70歳を超えてから天職を見つけられたのですが、すてきなことだと思います。

また、ビデオ撮影が大好きな男性がおられます。イベントがあると、ビデオをもって、綾部の行事を手弁当で撮影されます。それを自宅で編集し、NHKに投稿されます。すると採用され、放映されることが多く、それを見た近畿一円の視聴者が綾部に行ってみたく思われるようです。これも大好きなことで社会をすてきに変える身近な例だと思います。

私ごとですが、社協の広報紙に文章を載せさせていただいています。下手だけど、書くのが好きなのでしょう。このように、「写真ボランティア」、「エッセイボランティア」など色々なかたちがあると思います。

嫌々するのではなくて、大好きなことでもって、社会貢献をする。これが「21世紀的」「21世紀流」なのではないかと思います。

## 「X」の発見法

大好きなことがわからない、という方が多くいらっしゃいます。どうしたら見つけれられるのかをテーマに、今年1月に「半農半Xという生き方・実践編」(ソニー・マガジズ)という本を出させていただきました。幸い私は発見することができました。ではどうしたら悩める若い人もできるのか、仕事一途だった団塊の世代はできるのだろうかと考えています。みんなそのヒントを探していますが、今の時代は選択肢が多すぎて、発見できることは逆に難しくなっています。でも、それは例えば、ハンカチ落としみたいなもので、実は既に自分の足元に落ちていて、後は気づくかどうかだけだったりするのではないのでしょうか。私も若いときは何にでも挑戦していましたが、もう40代、人生の後半生ということで、これからはテーマを絞って、「選択と集中」でいき、時間、お金、エネルギー、愛情を自分のテーマに注いでいきたいと思っています。

X(天職)を見つけるヒントとして、「朝2時起きで何で

もできる！」(サンマーク出版)の著者で環境ジャーナリストの枝廣淳子さんは、「好きなこと×得意なこと×大事だと思うこと」だと述べられています。また、「週末起業」(ちくま新書)の著者で経営コンサルタントの藤井孝一さんは、「好きなこと×得意なこと×時流にあっていること」だと述べられています。お二人の共通点は「好きなこと×得意なこと」です。

自分のXって何だろうと考えるためには、一人きりの時間は大事です。私は娘が幼稚園の頃から一緒に夜8時に寝て、一人で午前3時に起きるという生活を4年続けています。30分でも1時間でも2時間でもいいから自分と向かい合う時間、「積極的な孤独な時間」を設けて、自分が何をしたいのかを考えます。余談ですが、一緒に寝ると娘も安心するのかがっすり眠るようになり、夜中に泣いたりすることがなくなり、驚きました。子どもを育てることを「育児」といいますが、大人にも「育自」の時間が大事なのです。

## これから必要な2つのセンス

これから、「2つのセンス」が必要だと思います。一つは、センス・オブ・ワンダー(自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性)です。環境問題の古典「沈黙の春」の著者レイチェル・カーソンは、「生まれつき備わっている子どものセンス・オブ・ワンダーをいつも新鮮に保ち続けるためには私たちが住んでいる世界の喜び、感激、神秘などを子どもと一緒に再発見し感動を分かち合ってくれる大人が少なくともひとりそばに必要があります」と述べられています。

私も、日本の四季の美しさを表現する「雪月花のこころ」が大切だと思っています。核家族の家庭が増えて久しいですが、孫にそういう力を保てるように導くおじいちゃんおばあちゃん存在は特に大切です。

もう一つは、「社会起業家としてのセンス」です。これは「好き」なことを仕事にしていく力、社会起業、市民起業、地域の問題を仕事にしていくセンスなどです。「自然からのメッセージを感受すること」と「エクスカ(表現力)を高めること」の2つのセンスが必要だと思います。



---

## 誰（どこ）にでもあるXを発信する

---

私は今「村のひかりカフェ」という取り組みをしています。これは、毎月一人近くに住んでいるお年寄りの方に会いに行き、お話をうかがうものです。アフリカの諺に「一人のお年寄りが帰天するということは図書館が1つ焼失するのと同じ」というのがありますが、大きな戦争体験をされた昭和一桁生まれ以上の方の知恵を早急に収集する必要があると感じています。大きな光でなくても、それぞれみんな発しているもの（光）を残していきたいと思っています。

友人のちょんせいこさん（大阪在住）は、3km以内の人やものをホームページ「半径3キロの物語」(<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Yuinoki/1383/>)で発信されています。三里四方のものを食べていたら医者はいらないと言いますが、全国のあちこちで、例えば森や山をテーマにやろうとか街中でやろうとか、そういう取り組み（発信）がどんどん増えていくと日本全体が少しずつ元気になっていくと思います。

綾部は一見何もなさそうですが、眠れるものがたくさんあります。知らないだけで、気づかないだけで、たくさんあるのです。私は「あるもの」を集めて、それをことばにし、どんどん発信したいと思っています。私は中学の頃から写真が好きでよく撮っていました。しばらく撮る気が起きなかったのですが、最近また始めました。おもしろいものが綾部にはいっぱいあります。

---

## 夢の数だけ希望がある

---

次に簡単なワークをしたいと思います。夢を8つあげるワークです。私は年末年始に毎年必ずやります。夢も細部が必要なのです。そしてこれは、使い次第では、出会いのツールにもなります。書かれたものを見ると、その人がどんな人なのかとてもよくわ

「30cm革命」というものを提唱したいと思っています。「30cm」とは「ほんの小さな広さ」を表現しています。手の届くところにゴミや空き缶が落ちていたら拾う。空いてる壁があったら、名言を貼っておくなど、小さなスペースにこころの種を蒔くことです。1人ひとりが「30cm革命」をしていくと日本は変わります。

21世紀のキーワードの1つとして、「生命多様性（生物の多様性）」という言葉がありますが、そこから1字変えて「使命多様性」という言葉をつくりました。満員電車で通勤していたころ、ぎゅうぎゅう詰めでいやだけど、同乗している皆もそれぞれX（使命）があるのだなと気づきました。すると満員電車も都会の雑踏も苦にならなくなりました。そして、Xは人間だけではなく、動物も植物も使命があるのです。あらゆる生命、森羅万象には天与の才がきっとあるのです。これからはそれを感じる詩人の心になることでしょう。

綾部と近隣市町との違いを考えてみました。例えば、綾部なら、「平和×里山（農村風景や自然）×人生探求（自己探求）」で見えてくるものがあるのではないかと考えています。半農半Xの講演では、私は行く先々で、「Xは誰にでもある。それは人間だけでなく、地域にもあるのです」と話します。ボランティア活動を中心に、Xを発揮する人が多いオンリーワンのまち（綾部）になっていけばいいと願っています。

かります。AさんとBさんはまだ会われたことがないけれど、引き合わせると何かが始まりそうだなとか。

夢は公開した方が、周りが夢を応援してくれる力が働くので実現しやすいものです。一人8個ずつ夢を書くと、約70人いるこの会場には600個の夢がある



### ●人生で叶えたいこと(夢チェック)

2.	3.	4.
1.	人生で叶えたい 夢は 何ですか？	5.
8.	7.	6.

※できれば1年に1度は、年末年始や誕生日頃、自問してみてください。

ことになります。3. 8万人の綾部には30万個の夢がある。日本(1.25億人)には10億個の夢があり、世界(65億人)には500億個の夢がある。こ

んなに多くの夢があるということはそれだけ希望がある、素晴らしいことだと思います。

## 「それでも」 マザー・テレサ

最後に、マザー・テレサの「それでも」という詩を紹介して講演を終わります。つらいことがあったとしても、「それでも」やらなければならないとこの

詩を思い出して頑張ってください。  
本日はありがとうございました。

人々は、理性を失い、非論理的で自己中心的です。  
それでも彼らを愛しなさい。  
もしいいことをすれば、人々は自分勝手だとか何か隠された動機があるはずだ、と非難します。  
それでもいい行いをしなさい。  
もしあなたが成功すれば、不実な反と、ほんとうの敵を得てしまうことでしょう。  
それでも成功しなさい。  
あなたがしたい行いは、明日には忘れられます。  
それでもいい行いをしなさい。  
誠実さと親しみやすさはあなたを容易に傷つけます。  
それでも誠実に親しみやすくありなさい。  
あなたが歳月を費やした建物が、一晩で壊されてしまうことになるかもしれません。  
それでも建てなさい。  
ほんとうに助けが必要な人々ですが、彼らを助けたら彼らに褒められてしまうかもしれません。  
それでも彼らを助けなさい。  
持っている一番いいものを分け与えると、自分はひどい目にあうかもしれません。  
それでも一番いいものを分け与えなさい。

## ちょっと 豆知識

ボランティアは、私の気持ちや行動を積極的に押し出すもの「ボランティア」って言葉…。その言葉のイメージはさまざま。「偽善・自己満足・特別な人・奇特な人・余裕のある人・余裕のある人・自己犠牲・ただ働き…」、また「奉仕活動」と「他人助け(ひとたすけ)」などと混同し、「私」や「私心」を抑えてという良くないイメージが一人歩きしていることも少なくありません。そこで、そのイメージを少し整理されたものをご紹介します。活動の場面で悩んだりした時は、立ち止まって初心を思い返してみることも必要ではないでしょうか。

「ボランティア」の語源から…

ラテン語のVolo（ウオロ）に由来する＝「意思」する。これに派生して名詞のvoluntas（ウオルンタス・自由意志）になりさらに人をあらわす-erをつけて「volunteer」となった。英語ではwill（意思、～するつもり）に相当。→喜んで～する。自発的に何かやろうとする、志願するという意味をもつ。

「ボランティア」の捉え方

### ●ボランティアは「市民社会」を構築する重要な担い手である

一人ひとりの市民が能動的に社会とかかわり、持っている力を発揮し、問題解決に取り組むような社会。その主役はまさに「市民」。

### ●ボランティアは「自分の意思」で始まる

活動のきっかけは誘われたり、頼まれたりが意外に多い。しかし、大切なのは、ボランティアはやりたくなければやらなくていい。

### ●ボランティアは自分の関心のある活動を自由に選べる

自分発で選んでもかまわない。自分の関心を出発点にボランティア活動ははじめていい。

### ●ボランティアは活動に対して責任を持ち、その役割を果たす

気軽に、無理なく、空いた時間を使って。でも責任が軽いのがボランティアではないはず。あてにならないのはボランティアだから？

### ●ボランティアは「共感」を活動のエネルギーにする

喜怒哀楽。「そうだ、そのとおりだ！」と思う気持ちももたなくなって人が動き出すことはよくあること。

### ●ボランティアは金銭によらない「やりがい」と「成果」を求める

金銭の見返りがないボランティア活動、継続しているのはなぜ？活動のやりがいや手応えはさまざまだが、感動や有用感、反応がそこにある。（活動を継続・広げるために実費程度を受け取ることももある）

### ●ボランティアは活動を通して自らの新たな可能性を見いだす。

ボランティアかつどうがきっかけで、人の隠れた一面や性格が引き出されたり、新たな目標ができたりということは珍しくない。

### ●ボランティア活動を通して異なる社会の文化を理解する

海外協力や国内の外国人との交流、日本人同士であってもさまざまな生活様式や考え方に触れ、驚き、気づき、発見する醍醐味。

### ●ボランティアは活動に新しい視点や提案を示し行動する

さまざまな関心、経験、生活背景を持ったボランティアのかかわりで、多角的な視点からの見直しが可能に。

### ●ボランティアは安価な労働力ではなく、無限の創造力である

有給スタッフとは違うボランティアの役割。ボランティアだからこそ組織に提供できる固有のものとは？特性を活かしてこそ発揮する力は無限大。

JVCA「ボランティアコーディネーター基本指針」②より

# 助成金情報

当センターホームページ参照  
(<http://www.ayabe-vc.org>)

助成金情報

【申請期限】  
6月20日(火)  
NPO法人も  
申請できます。

## 綾部市社会福祉協議会 「きばってます!!福祉活動応援資金」

地域福祉を進めていくための活動は、これからの社会を支えていくためにますます重要性が高まり、だれもが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域住民による地域住民のための活動が求められています。この資金は、積極的に取り組んでいる地域に根ざした活動の自立・向上を目的に応援をします。

### 【対象の活動】

綾部市内において非営利活動グループ(市民活動・ボランティア活動・当事者支援活動・NPO法人等)がおこなう地域福祉活動。※ただし、NPO法人をのぞく法人格をもつ団体は対象外となります。

例えば一難病患者や高齢者・障害者などを対象とした交流会や研修会・講習会・スポーツ鑑賞・サロン活動・料理教室・見守り活動、各活動グループのPRパンフレット作成などの啓発活動、障害児の遊び場づくりやリハビリ活動、ユニバーサルデザイン用具作成などの研究活動、相談活動、災害復旧活動、etc...

上記の事業実施にかかわる会議費、事務費、資料費、通信費、備品購入費、市外旅費その他事業実施に必要な経費。※ただし、飲食費、修繕費、人件費としての使用は認めないものとします。

【助成額】1団体10万円を限度 【申請期限】6月20日(火)

※詳細については、綾部市社会福祉協議会事務局 (TEL43-2881 FAX43-2882)までお問い合わせ下さい。

予算の範囲内で助成され、設備費等は対象となりません。まずはご相談ください。

【問】綾部市役所  
福祉保健部  
高齢者介護課  
42-3280(代)

## 綾部市高齢者介護課 「地域福祉活動事業補助金」

### 【事業目的】

高齢者が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らせるよう、自治会等を単位として構成するボランティアグループが、高齢者を対象として自主的に行う地域でのふれあい活動等に対し補助金を交付します。

- 65歳以上の高齢者を対象とします
- 3人から10人程度の地域住民のグループが行う事業
- 国、府、市その他団体から補助を受けた事業を除きます

### 【事業内容】

- ①高齢者等への定期訪問、話し相手、買い物、配食、外出介助、家事など、日常生活援助活動
- ②交流会の実施及び留守番等の介護者支援活動
- ③援助活動のための話し合い、学習を通じ地域実態の把握及び情報交換や福祉への理解を深める活動
- ④高齢者が通所により、介護、給食、送迎、レクリエーション等のサービスを受けるなど日常生活の支援や介護者の負担を軽減する活動
- ⑤その他地域福祉活動で市長が必要と認めるもの

【補助金額】④は100万円、その他は10万円を限度。

## 綾部市民生児童課 「シルバー・チャイルドハウス事業補助金」

### 【事業目的】

高齢者と児童がふれあい、学びあうことにより地域の子育てを一層充実させるとともに、高齢者が生きがいをもって社会参加活動ができることを促進するために、高齢者が児童との各種ふれあい事業を実施する場合に、予算の範囲内において補助を行います。

【事業内容】65歳以上の高齢者のグループで、0歳から小学校6年生までの児童を対象に、年10回以上の「ふれあい活動」(お年寄りや児童が楽しく交流することで◎郷土の文化や歴史を教えたり◎昔の遊びを教えたり◎生活の知恵を教えたりして、楽しく交流する活動)

【補助金額】1回当たり5,500円に実施回数に乗じて得た額と実際に事業に要した経費のいずれか少ない方の額。(年額300,000円を限度)

【問】綾部市役所福祉保健部  
民生児童課

42-3280(代)

## （財）太陽生命ひまわり厚生財団「社会福祉助成事業」 <申込：平成18年6月30日>

### 【対象団体】

地域福祉活動を目的とするボランティアグループ  
およびNPO（法人格の有無は不問）

### 【事業内容】

在宅高齢者または在宅障害者の福祉に関する事業  
(1) 在宅高齢者または在宅障害者の自助・自立の意欲を引き出し、または鼓舞する等その生活の支援に資する事業  
(2) 在宅高齢者または在宅障害者の家族に対し介護負担の軽減にかかわる支援をする事業  
(3) 在宅高齢者または在宅障害者の福祉に関する事業をするために必要な機器、機材、備品等を整備する費用  
【助成金額】1件につき20～50万円(総額2,000万円)

【決定時期】平成18年9月中旬

### 【申込方法】

所定の申込書に必要事項を記入して郵送(FAXによる提出は不可)。応募申込書は、6月20日までに応募申込者の団体名、住所、TEL、FAX、担当者名を記入してFAXまたは郵便で請求してください。

【締切日】平成18年6月30日(金) 必着

### 【応募申込書請求先・提出先】

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-11-2 太陽生命ビル内 (財)太陽生命ひまわり厚生財団 事務局  
TEL・FAX03-3272-6268  
URL <http://www.taiyo-seimei.co.jp/>

## （社福）丸紅基金 平成18年度（第32回）社会福祉助成金 <申込：平成18年6月30日>

全国の福祉施設や任意団体が必要とする設備、機器、車輛、家屋のほか、各種団体が行う調査・研究活動などの資金助成として、毎年約1億円の助成を継続しており、本年で32回目を迎えました。

### 【助成対象】

(1) 申込者(実施主体)は、原則として非営利の法人であること。(ただし、法人でない場合でも、3年以上の継続的な活動実績があり、組織的な活動を行っている団体は対象とする)  
(2) 明確な目的を持ち、実施主体、内容、期間が明らかであること。  
(3) 助成決定から1年以内に実施が完了する予定のものであること。  
(4) 一般的な経費不足の補填でないこと。  
(5) 申込案件に、国や地方公共団体の公的補助が見込めないこと、また他の民間機関からの助成と重複しないこと。

### 【助成金額・件数】

助成金総額は1億円を目処とし、50件以上の助成を行います。助成申込金額は限定しませんが、1件当りの助成金額は、原則として、200万円を上限とします。

### 【申込方法】

申込は、当基金所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、下記の添付書類と共に事務局宛に、ご送付願います。

### 【添付書類】

1. 定款(任意団体の場合は、規約などの内部規定)
2. 役員名簿(住所、氏名、年令の記載があるもの)
3. 申込団体および申込対象施設の決算書(収支計算書、貸借対照表)
4. 対象事業案件に要する費用の根拠となる書面(見積書、購入商品のパンフレット・カタログの抜粋、写しなど)
5. 団体・施設の案内書(最近の刊行物があれば、併せて添付してください)
6. 本部および申込対象施設の所在地地図 なお、申込書など申込関係書類は、ホームページ(<http://www.marubeni.co.jp/kikin/boshu.html>)からダウンロードしてください。ダウンロードができない場合は、ファックス、ハガキ、または、Eメールにて、郵便番号と住所・団体名・担当者名・電話番号・ファックス番号を明記の上、当基金にご請求ください。

【申込受付期間】6月30日(金) 消印有効

### 【問い合わせ・申請先】

〒108-0014 東京都港区芝5-20-6 丸紅東京本社 三田別館4階 社会福祉法人 丸紅基金 TEL03-5446-2474・2475 FAX03-5446-2476  
E-mail: [mkikin@marubeni.com](mailto:mkikin@marubeni.com)

### ●日本財団

- ①福祉車両助成 募集期間6/1日から7/31まで ②改修事業助成 切6/20・9/20  
詳しくは、<http://www.nippon-foundation.or.jp>

## NHK厚生文化事業団 第18回地域福祉を支援する「わかば基金」(※切:平成18年6月23日)

「わかば基金」は地域に根ざした福祉活動をしているグループに支援金を贈り、その活動を支援しています。また、放送などでその活動を広く紹介して地域福祉の向上を目指しています。

### 【助成対象団体】

地域で活発な福祉活動をすすめているグループ。例えば以下のような活動をしているグループです。

- (1) 地域で暮らす高齢者や障害者の日常生活を支援したり、さまざまなサービスを提供している。(在宅か施設かは問いません)
- (2) 障害者の社会参加や就労の場づくりを促進したり、その活動の支援にあっている。
- (3) 文化活動を通じて、障害や年齢をこえた交流や相互理解をはかっている。
- (4) 福祉情報の提供やネットワークづくりを通して、地域の福祉活動の向上につとめている。

※ただし、次のようなグループは対象外。●行政や他財団等からの助成を「わかば基金」の申請と同じ内容で受けている。●法人格をもっている(ただし、NPO法人は申請可)。●人件費や家賃など、活動運営経

費や実施済の事業への補てんを目的に申請している。

### 【助成金額】

1グループにつき上限70万円。およそ15グループを支援予定。

### 【申込方法】

申請書に必要な事項をもれなく記入のうえ、下記申込先へ郵送(FAX・E-mailでの受付不可)。申請書はホームページ(<http://www.npwo.or.jp/>)からダウンロード可。

### 【その他】

1. 支援決定後、支援金の使途項目は変更できません。
2. 支援先に選ばれたグループには、活動の様子について、放送等の取材に協力していただく場合があります。
3. 年度内に支援金使途を含めた活動報告書を提出していただきます。

【締切日】平成18年6月23日(金)〈必着〉

【決定時期】平成18年10月上旬

### 【申込先・問合せ先】

〒540-8501 大阪市中央区大手前4-1-20 NHK大阪放送会館内 (社福)NHK厚生文化事業団 近畿支局  
TEL06-6937-3412 FAX06-6941-0830

## (財)ユニバーサル財団 平成18年度市民活動助成について(※切:平成18年7月31日)

高齢者を対象とした市民活動は、これからの社会を支えていくために不可欠な社会資源となっています。一方、高齢者自身の社会参加も活発になっています。ユニバーサル財団では、豊かで活力ある長寿社会の実現をめざして、一人ひとりが生き生きと充実した人生を送ることができる新しい世紀の社会づくりやコミュニティ再構築等の活動に助成を行います。21世紀は、また、「グローバル市民社会」と言われます。活動は国内に止まらず、世界に拡げて、助け合うことが大事ではないでしょうか。当プログラムでは、国際支援・交流等を行っている市民活動団体にも広く活動助成を行います。

### 【助成対象】

1. 高齢者が活動する市民活動団体
2. 高齢者の医療・保健・福祉、まちづくり等、高齢者を対象とする市民活動を行う団体

### 【助成期間および金額】

1年間。原則として1件当たり100万円を限度といたしますが、助成額については活動内容、及び規模により査定をさせていただきます。

### 【助成金の使途】

市民活動、または催し物等の事業に直接要する諸経費(既に終了した活動・事業については含みません。)

### 【応募方法】

当財団所定の申請書に必要な事項を記入の上、当財団宛ご送付ください。(紛失等のトラブルを避けるため、なるべく書留や宅配便でお送りください。)なお、ご提出いただいた申請書はご返却いたしかねます。

### 【選考方法】

当財団の選考委員会により決定させていただきます。採否の決定は文書によって通知いたします。

【応募締切日】平成18年7月31日(必着)

【発表】平成18年11月1日予定

【助成金振込】平成18年11月下旬予定

【申請書類送付先】〒160-0004 東京都新宿区四谷2-14-8 YPCビル5階 財団法人 ユニバーサル財団  
Tel03-3350-9002 Fax03-3350-9008

URL <http://www.univers.or.jp/univers.html>

## 機材無料貸し出し

当センターホームページ参照(<http://www.apabe-vc.org>)

綾部市社会福祉協議会では、ボランティア団体や住民団体等が地域で行う行事やイベントを盛り上げる機材を無料で貸し出しを行っています(営利目的の場合は除く)。

**【利用対象者】**綾部市民で構成する住民団体、もしくは市民(車椅子の場合)

**【対象活動】**

- <1>住民団体がおこなう営利を目的としない活動で、地域福祉の向上に寄与するもの
- <2>他制度の利用が困難で、緊急的に福祉用具を必要とするもの。(車椅子の場合)

**【貸出期間】**1週間程度

**【申し込み】**貸出希望日の1週間前までに綾部市社会福祉協議会へ予約し、貸出日までに別紙借用書を提出してください。(土日祝日を除く)ただし、車椅子など緊急性が高い場合は、その都度受け付けます。

**【貸出料】**無料(ただし、貸出時の状態でご返却ください)

※破損等の場合は、修理代を別途請求させていただくことがあります。

**【問い合わせ・申し込み】**

社団法人綾部市社会福祉協議会 綾部市川糸町南古屋敷5-1綾部市福祉ホール内

TEL:0773-43-2881 FAX:0773-43-2882

**【福祉用具】**車イス

**【福祉体験用具】**

高齢者疑似体験セット/聴覚・視覚障害者体験セット/アイマスク

**【イベント機材】**

軽量簡易テント/ワイヤレスアンプ/ワイヤレスマイク/誘導灯(シグナルライト)/トランシーバ/液晶プロジェクター/OHP/自立式スクリーン//手動・電動かき氷機/わた菓子機/ポップコーン機/発電機/ガソリン携帯缶/おでん鍋/アルミ寸鍋/アルミ料理鍋/鉄物ガスコンロ

**【レクリエーション機材】**

ターゲットバードゴルフ/マグネットダーツ/新十題/ポッチャボール/フリーロー/ピンボウリング/ピロポロ/キックターゲット/的あてゲーム/ディスクゴルフ/シュートゲーム/わなげ//糸巻きダービー/思い出カルタ/ジャンボサイコロ/スカットボール/ジャンボサイコロ/



非営利な活動に「機材」を無料貸し出し

## お知らせ

### 講演会 「パーキンソン病教室」

パーキンソン病ってご存知ですか？

基本的な症状や治療法、リハビリについていっしょに勉強しましょう。どなたでも参加できます。

- 日時：平成18年6月3日(土)13:30～
- 場所：綾部市立病院 東館2階講堂(青野町)
- 講師：京都府立医科大学神経内科教授 中川正法さん
- 問合せ：パーキンソン病患者・家族の会「アヤべたんぼの会」事務局 木下(電話46-0377)

### 講座

### あなたの出番です。”自分発見！”「ボランティア活動入門講座」

- 日時：平成18年 6月17日(土)・24日(土) 13:30～16:30(受付13:00～)
- 会場：綾部市福祉ホール(川糸町)
- ※詳細は本紙15ページ参照

### EVENT 「第1回綾部フライングディスク大会」

誰でも、もっと気軽にスポーツに参加したい、みんなと一緒に楽しく運動をしたいという気持ちがあります。また、ひとつの記録が生まれたら、次はその記録に向かってチャレンジできる、そんな継続性もスポーツには必要です。私たちは、誰でも楽しむことができるというフライングディスクの特性も生かしたスポーツ大会を開催します。障害のあるなしにかかわらず、フライングディスクの世界を一緒に楽しみましょう！

- 日時：平成18年7月9日(土)9:00～(受付)
- 場所：綾部市市民センター(並松町)2階競技場
- 競技種目：アキュラシー
- 主催：綾部フライングディスククラブ“そよ風”、綾部市身体障害者協会、綾部市社会福祉協議会
- 参加費：500円
- 申込方法：所定のエントリー用紙に必要事項を記入の上、下記申し込み先まで郵送又はFAXにて送付ください。
- 申込期限：6月17日(土)
- ※ただし、募集人数を超えた時点で受付終了となります。
- ※運営ボランティアスタッフ同時募集！
- 問合せ：綾部市社会福祉協議会 (電話43-2881)(FAX43-2882)

## ボランティア募集

### 施設ボランティア

- 活動内容：木陰での高齢者との話らい(喫茶コーナー)
- 活動日時：相談(13:30～15:00)
- 活動場所：どんぐりの家(里町)
- どんぐりの家(藤本)42・6957

### 施設ボランティア

- 活動内容：高齢者に寄り添っての語らい等
- 日時：曜日指定なし
- 活動場所：松寿苑(田野町)
- 問い合わせ：社会福祉法人松寿苑 総務係(大槻)43・1123

## 共同生産者募集

### しめなわ(お正月飾り)作りの共同生産者になりませんか？

ご自宅用に日本の伝統のしめなわ(お正月飾り)を作っておられる方、しめなわ作りに興味がある方、ぜひ栗の木寮と一緒にしめなわ作りをしませんか？(今回は秋からの作業に向けての講習です)

- 日時：6月24日(土)または7月22日(土) 10:00～11:30(講習)

- 場所：いこいの村栗の木寮 第1作業棟
- 申込方法：住所・氏名・電話番号(あればFAX番号)を明記の上、下記の住所へハガキもしくは、電話、FAX
- 申込期限：実施日の4日前
- お問い合わせ・連絡先：〒629-1242 十倉名畑町久瀬谷2番地 電話：46-0101 FAX：46-0903
- 担当：いこいの村栗の木寮 しめなわ共同生産者担当 渡部(わたなべ)

# あやべのボランティア

**自分発見!**  
**ボランティア活動**  
**入門講座**

**参加者募集**

若いころ、  
社会を変えようと  
行動した時の  
あの「熱い思い」を、  
次は「地域」で…

ポプティランのビートルズを  
歌っていたアナタも  
“インターナショナル”を  
歌っていたアナタも  
“いちご日傘”を  
歌っていたアナタも

「私」も「まち」も元気になる。

人の役に立ちたい。  
第2の人生を楽しみたい。  
趣味や特技を活かしてみたい。  
自分らしく生きる。  
上手にコミュニケーションしてみたい。  
暮らしやすいまちをつくりたい。  
まちの安全を考えたい。などなど

そんな思いを形にする  
「ボランティア活動」。

「ボランティア活動」の魅力を  
初歩から楽しく学びます。



2006年 6月17日(土)・24日(土)  
13:30~16:30  
(受付13:00~)

会場：綾部市福祉ホール(川糸町)  
0773・43・2881(綾部市社会福祉協議会)

- 対象：ボランティア活動に関心のある方
- 定員：25名(参加費無料) 定員になり次第締切



※駐車スペースに限りがありますので、市役所駐車場をご利用ください。

- |  |  |
|--|--|
| <p>■第1回 6月17日(土)<br/>「ボランティア活動の基礎」ほか<br/>講師：名賀 亨さん(華頂短期大学助教授 前大阪ボランティア協会 事務局長)</p> | <p>■第2回 6月24日(土)<br/>「コミュニケーション・ワークショップ」ほか</p> |
|--|--|

主催：あやべボランティア総合センター・綾部市社会福祉協議会

問・申込：あやべボランティア総合センター (0773・40・1388)  
参加希望の方は、事前にお申込ください。 E-mail: info@ayabc-vc.org

あやべの

# 「ボラ・セン」へ行こう!

(ボランティアセンター)



応援します。ボランティア活動

## ボランティア活動に役立つ各種講座の開催

入門講座やグループで、団体が活動していくうえで役立つ各種講座等を開催しています

## ボランティア活動に関する情報受発信

- 「あボ情報」の発行: ボランティアに関する情報を掲載した情報誌を発行しています
- センターホームページ・FMいかるによる発信

## ボランティア活動に関する相談・サポート

ボランティア活動に関する各種相談、グループ団体の活動に関する支援、また関係情報の提供をしています。

## ボランティア活動を支援する備品の貸出

社会福祉協議会と連携のもと「福祉体験・イベント・レクリエーション」機材を無料貸出を行っています  
車イス/高齢者疑似体験セット/聴覚・視覚障害者体験セット/アイマスク/軽量簡易テント/ワイヤレスアンテナ/ワイヤレスマイク/液晶プロジェクター/OHP/自立式スクリーン/手動・電動がき氷機/わた菓子機/ポップコーン機/発電機/おでん鍋/アルミ寸胴鍋/アルミ料理鍋/鋳物ガスコンロ、など

## ボランティア活動を支援する設備の貸出(※)

- ハートセンター(会議室・談話室)・綾部市福祉ホールが無料で利用できます
- 印刷室: 印刷機・コピー機・紙折機が利用できます(営利を目的とするものや個人の都合による目的など、ボランティア・市民活動と関連ない目的による利用はご遠慮ください)  
【使用料例】印刷機: A4 1円/枚(製版50円/版)・A3 2円/枚(製版100円/版) コピー: 10円/枚
- 保管ロッカー: 団体の備品を保管できるロッカーが利用できます(30×40×50cm)

(※)利用の際は、当センターへの登録が必要です。

## あやべボランティア総合センター

〒623-0021

綾部市本町二丁目14 あやべハートセンター内

(電話) 0773・40・1388

(FAX) 0773・40・1389

E-mail: [info@ayabe-vc.org](mailto:info@ayabe-vc.org)

